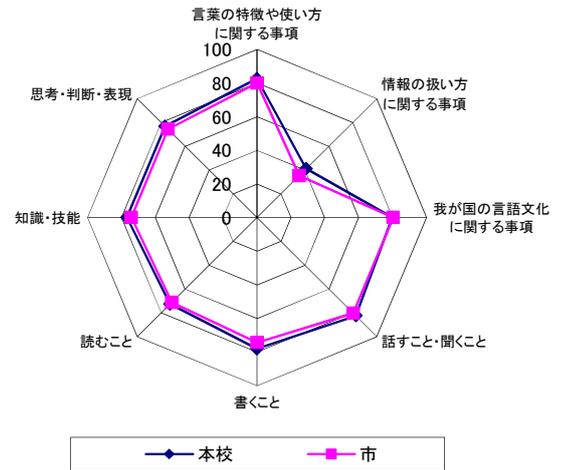


宇都宮市立横川中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.7	80.0	76.5
	情報の扱い方に関する事項	41.0	35.2	29.3
	我が国の言語文化に関する事項	79.9	80.4	63.1
	話すこと・聞くこと	82.6	80.4	77.7
	書くこと	78.0	74.3	62.9
	読むこと	72.7	71.2	65.8
観点別	知識・技能	76.7	74.1	68.4
	思考・判断・表現	76.8	74.3	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

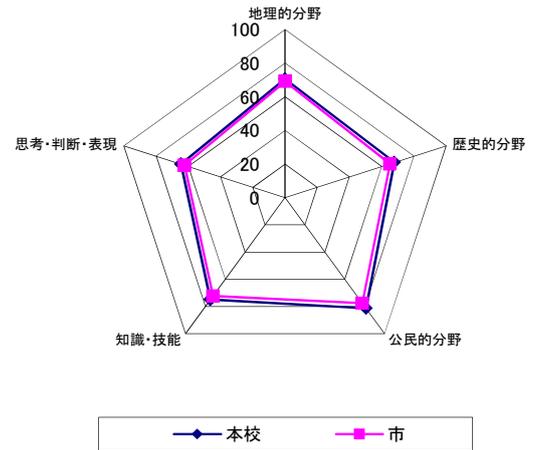
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○市平均を2.7ポイント上回った。 ○「小学校で学習した漢字を正しく書いている」に関する問題の正答率は、市平均を大きく上回る項目が多かった。 ○「第3学年までに学習した漢字を正しく読んでいる」に関する問題の正答率も、すべて市平均を上回った。 ●「用言の活用について理解している」問題の正答率は、市平均を5.8ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法に関しては、問題演習を繰り返し行い、定着を図っていく。また、自分の言語生活を見直し、敬語や慣用句などを日常生活で使いこなしていけるように、スピーチなどの活動を積極的に授業等でも取り入れていく。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○市平均を5.8ポイント上回った。 ○「情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している」問題の正答率は、市平均を9.6ポイント上回った。 ●正答率そのものが低い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の情報を視覚的に整理して必要な情報を捉えさせたり、段落の役割を考えたり、文と文、段落と段落のつながりについて捉えたりする学習を充実させ、情報同士の関係について捉える力を身に付けさせていく。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●市平均を0.5ポイント下回った。 ○「歴史的仮名遣いについて理解している」問題の正答率は、市平均を0.9ポイント上回った。 ●「現代語訳を手掛かりに古典を読んでいる」問題の正答率は、市平均を1.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品については、古語の語彙を豊富にするために、語句の意味を捉える指導を行うとともに、さまざまな古典の作品に触れさせる機会を設ける。また、古典の現代語訳から内容を捉えることに課題があるため、読む力が身に付く授業を展開していく。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○市平均を2.2ポイント上回った。 ○「話の展開を予想しながら聞いている」問題の正答率は、市平均を3.5ポイント上回った。 ●「自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話している」問題の正答率は、市平均を1.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを明確にして話すことや、論理の展開を考えて工夫して話すことに課題がある。短作文や短いスピーチ等をグループ内で発表する活動を取り入れ、自分の意見を整理して表現する活動を増やしていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○市平均を3.7ポイント上回った。 ○「パッケージデザインの応募用紙を書く」「文章を書く」に関する問題の正答率は、市平均をすべて上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことが苦手な生徒も、諦めずに記入した様子が見られた。説得力のある文章の構成を考えたり、わかりやすく伝わる文章になるように工夫したりする力を身に付けるため、材料の中から自分の意見をまとめる機会を増やしたり、題材を工夫した作文の課題を提示したりして、書く力を伸ばしていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○市平均を1.5ポイント上回った。 ○「説明的な文章の内容を読み取る」に関する問題の正答率は、市平均をおおむね上回っている。 ●「文学的な文章の内容を読み取る」に関する問題の中には、市平均を下回るものもあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明的な文章の読み取りに関しては、段落構成を理解したうえで、要旨をまとめる授業を行っていく。文学的な文章の読み取りに関しては、細かな描写に注目しながら、登場人物の行動の意味を考えたり、筆者の場面設定や人物設定の意図に迫ったりするような授業を展開していく。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	70.6	69.2	61.5
	歴史的分野	67.8	65.1	59.1
	公民的分野	81.3	77.6	71.6
観点別	知識・技能	74.9	72.2	66.8
	思考・判断・表現	64.5	62.3	53.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

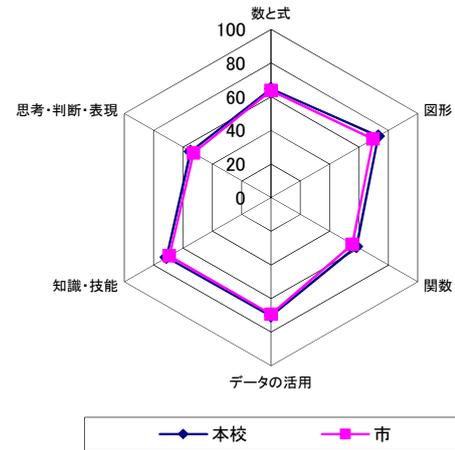
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○概ね市平均を上回っていた。特に「日本の地域的特色」については市平均を大きく上回る項目が多かった。 ●「日本の地形の特色」についての問題で、正答率が市平均より下回る項目があった。	・基礎的・基本的事項の理解度をさらに向上させるために、新たな単元でも関連する項目について既習内容を取り上げるようにしていきたい。図や映像資料なども活用していくようにする。
歴史的分野	○ほとんどの問題の解答率が、概ね市平均を上回っている。1年次の内容についても正答率が高かった。 ●江戸時代について、資料を活用する問題での正答率が低い問題があった。	・基礎・基本となる知識をさらに身に付けられるように、授業ごとに小テストを実施する。また資料や図の読み取りを丁寧に行うことと、説明したりする学習活動を取り入れ、資料活用の技能が高められるようにする。
公民的分野	○市平均を上回っており、理解が図られていると考えられる。特に「人間の尊重と日本国憲法」についてはほとんどの問題で市平均を大きく上回る項目が多かった。 ●現代社会に関する問題で、正答率が市平均より下回る項目があった。	・授業や小單元ごとに小テストを実施し、基本的内容の定着が図られるようにする。公民は普段の生活に即した内容も多いため、身近な例を挙げるなどして生徒の理解が図られるようにしていきたい。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	64.7	63.7	61.5
	図形	73.1	69.6	61.1
	関数	58.3	55.4	43.5
	データの活用	70.3	69.3	64.2
観点別	知識・技能	71.2	69.2	65.3
	思考・判断・表現	54.8	52.9	42.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

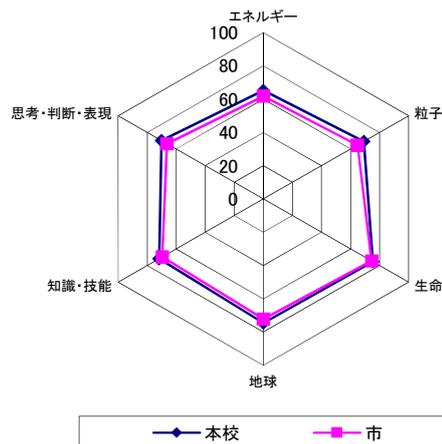
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○正答率が64.7で市平均より1.0ポイント上回っており、数と式の基本的な技能を身に付けている生徒が多いことがわかる。</p> <p>●式の展開と因数分解、連立方程式、二次方程式、平方根では市の平均を下回っており、苦手としてしている生徒がいることがわかる。特に、平方根の混合をふくむ式の加法を苦手としている。</p>	<p>・平方根については、その意味を十分に理解させ、無理数の特徴を捉えながら、数の一部として自覚させ、有理数と同じように扱えるように指導していく。</p> <p>・数と式の領域の学習を、単に計算ができればよいという捉え方をせず、身に付けた計算力を、活用の問題や身の回りの問題解決に利用する学習を多く取り入れる。</p>
図形	<p>○図形領域の問題については、すべての問題で市の正答率を上回る結果であった。</p> <p>●図形の証明をする問題について、半数近くの生徒が正答ではなく、図形の証明の必要性や、証明することについて苦手意識をもっている生徒が多い。</p>	<p>・図形の性質に関する知識の定着度はかなり高いため、継続して指導をしていく。</p> <p>・図形の合同や相似の証明問題を、穴埋め形式や、当てはまる合同条件を考えるなどの段階を踏みながら記述できるように指導していく。</p> <p>・単に証明するだけでなく、証明することの意味や必要性を考えさせるような指導をしていく。</p>
関数	<p>○関数について理解する問題は、市平均を上回っている。</p> <p>●関数$y=ax^2$の式から変化の割合を求める問題は、市平均を下回っている。</p>	<p>・関数関係を理解するには、式・グラフ・表を関連させて考えさせることが必要である。授業で繰り返し取り上げて指導することで、定着させたい。</p> <p>・関数の中でも2乗に比例する関数についての問題が苦手である。授業で丁寧に課題を扱い指導していく。</p>
データの活用	<p>○確率を求める問題において、市平均を6ポイント上回る結果であり、確率に関する理解が身につけている生徒が多い。</p> <p>●ヒストグラムの特徴を読み取って説明する問題は市平均を0.4ポイント、箱ひげ図に関する知識の問題は2.3ポイント下回っていることから、データの分布に関して苦手意識をもつ生徒が多い。</p>	<p>・ヒストグラムや箱ひげ図、四分位数などの基本的な知識を問う問題を繰り返し行い、知識の定着を図る。</p> <p>・箱ひげ図は昨年度から導入された内容であるため、箱ひげ図でデータの分布を読み取ることのよさや、ヒストグラムとの比較などを丁寧に扱い、確実な理解を図る。</p>

宇都宮市立横川中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	65.2	61.8	60.6
	粒子	69.2	64.8	54.0
	生命	75.4	74.5	66.6
	地球	74.6	72.1	63.0
観点別	知識・技能	71.7	69.6	63.4
	思考・判断・表現	70.1	66.5	57.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

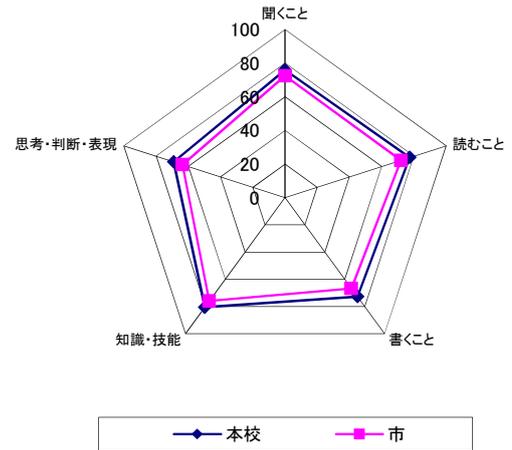
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ○電流と磁界の関係性を解答する問題では、すべての問題において市の正答率を上回っていた。 ○レンズによる像のでき方に関する問題では、正答率が50.3%と低い値になっていた。 ●位置エネルギーと運動エネルギーの移り変わりから速さが最大になる点を指摘する問題では、市の正答率を1.1ポイント下回っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レンズによる像のでき方の正答率が低かったので、光の道すじの作図の演習を重点的に指導していく。 ・エネルギーに関する問題の正答率を高めるために、実験での考察に主体的に取り組み、実験の結果について考えさせる指導を行っていく。
粒子	<ul style="list-style-type: none"> ○酸化銀の還元に関する問題では、すべての問題で市の正答率を上回っており、特に化学反応式を完成させる問題では、市の正答率を6.7ポイント上回っていた。 ○アンモニアの性質に関する記述問題では、市の正答率を6ポイント上回っていた。 ●水溶液の液性の変化に関する問題では、全国、市の正答率のいずれも下回っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・化学変化に関する実験をもとに化学反応式を立てるなど、実験と理論を関連付けた指導を継続して行っていく。 ・実験の考察を文章で考えさせるなど、思考力や表現力を高める指導を重点的に行う。 ・液性の変化とイオンの関係について、タブレットで見やすいモデルを作成するなど、どの生徒も取り組みやすい教材を作成する。
生命	<ul style="list-style-type: none"> ○種子植物の分類に関する問題では、すべての問題で市の正答率を3ポイント以上上回っていた。 ○生物の成長とふえ方に関する問題では、すべての問題で市の正答率を上回っていた。 ●毛細血管や血液の循環に関する問題に関する問題では、いずれも市の正答率を4ポイント以上下回っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物に関する知識は定着していたので、その知識をもとに考えを深めていく指導を行っていく。 ・人間の体に関する問題の正答率を上げるために、人体模型や映像資料の活用など、いつもは見えないものを視覚的に理解しやすくする指導を行う。
地球	<ul style="list-style-type: none"> ○地震が発生した時刻や震源からの距離を求める問題では、市の正答率を5ポイント以上上回っていた。 ○天気図を読み取る問題では、市の正答率を3.8ポイント上回っていた。 ●前線面のようすと雲の関係に関する問題では、市の正答率を3.6ポイント上回っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の計算については入試でも頻出であるため、速さや比を用いた計算が苦手な生徒への指導を数学科とも連携して行っていく。 ・最近の天気図を授業で扱うなど、身近な現象に基づいた指導を行っていく。 ・前線の様子や雲のでき方などは、生徒自身に図を描かせて説明をさせるなどの指導を取り入れ、理解を深めていく。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	75.9	72.5	70.5
	読むこと	77.4	71.9	66.9
	書くこと	72.8	66.8	59.7
観点別	知識・技能	80.5	76.0	73.9
	思考・判断・表現	69.1	63.6	55.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○内容理解と様々な文の聞き取りは3.1ポイント、対話文の応答は3.9ポイント、市の正答率を上回っている。</p> <p>●知識・技能の観点で、説明を聞いてその内容に合う写真を選ぶ問題では0.2ポイント、通学手段を聞かれて適切に応答する問題では1.3ポイント、市の正答率を下回っている。</p>	<p>・生徒同士のインタビュー等の言語活動や、指導者とのインタラクションを充実させることで場面・目的・状況に応じて聞いたり話したりする力を向上させる。</p> <p>・場面・目的・状況に対応して使用される有用な表現について系統的に、継続して指導する。</p>
読むこと	<p>○長文の読み取りは8.8ポイント、様々な英文の読み取りは3.4ポイント、市の正答率を上回っている。</p> <p>●知識・技能の観点で、mustの否定文の問題では0.2ポイント、思考・判断・表現の観点で、会話と資料をもとに適切な料金を選ぶ問題では0.5ポイント市の正答率を上回っているが、他の問題に比べると少ない。</p>	<p>・様々な英文の中で語形・語法や語彙の指導を行うことにより知識・理解を図る。</p> <p>・社会的な話題について書かれたまとまりのある文章の要点を捉える活動を行う。</p>
書くこと	<p>○場面に応じて書く英作文は7.7ポイント、単語の並べかえによる英作文は5.9ポイント市の正答率を上回っている。</p> <p>●思考・判断・表現の観点で、その季節が好きな理由や説明を書く問題では、4.1ポイント市の正答率を上回っているが、他の問題に比べると少ない。</p>	<p>・様々な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、自分が考えたり感じたりしたこと、その理由などを、簡単な文句や文を用いて表現する活動を行う。</p> <p>・インタラクションの中で理由や気持ち、考えなどについて表現させる活動を多く取り入れる。</p>

宇都宮市立横川中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自主学習ノートの取り組み方の統一	自主学習に取り組む際に「めあて」「振り返り」を記入させることで、何が分かり、何が分かっていないのか自分自身で確認しながら学習に取り組ませる。	「授業で習ったことをその日のうちに復習している」という設問に対する肯定的回答の割合は、60.6%で、市の肯定的回答の割合を14.9%上回っている。家庭学習に対して、積極的に取り組んでいる生徒の割合が多いことが分かる。
全教科における思考力・判断力・表現力を伸ばす言語活動の充実を図る授業改善	全教科において「見せ合い授業」を全教員が行い、互いに学ぶ機会を設けるとともに、学年や各教科、各単元に応じて、言語活動の充実を図るための授業を展開している。	「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」の肯定割合が、1年生は市肯定割合より1%程度下回っているが、2年生では6%、3年生では3%程度上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・授業での振り返りを生かした家庭学習の充実
 毎時間あるいは各単元ごとに各教科で、自分の学びを自覚できる振り返りを行うことにより、生徒自身に自分が何が分かり、何が分かっていないかを確認させる。それを踏まえて、不十分な学びを補うための自主学習、あるいは理解できた内容をさらに深めるための自主学習を家庭学習として取り組めるように指導していく。